

情報端末「iPad」の活用を進めています

令和3年度、目黒区は「GIGAスクール構想元年」として授業等において情報端末の活用を進めています。

教員は児童・生徒が「いつでも」「どこでも」「だれとでも」情報端末を活用して学習を進めることができるよう授業の改善を図っています。



情報端末を活用した授業の実践

児童・生徒は少なくとも1日1回は情報端末を使用した授業に取り組んでいます。児童・生徒が情報端末を自分専用の「文房具」として日常的に活用できるようになることを目指しています。

【小学校第3学年 理科】
単元名:植物を育てよう

POINT



児童が撮影したヒマワリとホウセンカの写真をスプリットビュー機能で並べ、色や形、大きさなど比較して分かったことを紹介しています。

教員から 情報端末上で2枚の写真を左右同時に比較させることで、似ている点や違った点に気付かせることができました。児童は自分が育てている植物を並べて比較することで、より意欲的に取り組むことができました。観察カードもスプリットビュー機能と同じ配置にして、児童同士が説明しやすいように工夫しました。

校長から 板書やノート指導といった従来型の授業と、情報端末機器を活用した新しい時代の授業を組み合わせ、児童の未来を見据えたより良い教育の提供を目指しています。

教員のICT活用能力向上研修

教員の情報端末等のICT活用能力向上を目指し、学識経験者等を講師とした校長・副校長向け研修を実施しました。また、各教員はICTスキルチェックの結果を基に、初級・中級・上級のいずれかの講座を選択して夏季集中研修を受講しました。

【夏季集中研修(ICT活用推進研修 初級)】
講義・演習「情報端末及びアプリケーションの理解」

POINT



スライドの共同編集作業の手順や活用方法について理解を深めた後、実際に共同編集でスライドに書き込みながら、協議を行いました。

受講者から 授業内での意見集約や発表等の活動でスライドを活用したいと感じました。また、保護者会等でも活用できることが多く、情報端末の活用幅が広がっていると実感しました。他校の取組等を共有できたので、自校で還元したいと思います。

受講者から スライドは、以前から使用していましたが、改めて、基本操作が学べてよかったです。また、範囲選択やリンク挿入などの操作方法が分かり、明日から役立つ内容でした。

区立小中学校・幼稚園・こども園と保護者間における連絡手段のデジタル化を進めています

ぜひ利用登録を!



保護者と学校・園が安心してより円滑に連絡を取り合えるよう、クラウドサービスを活用した双方向からの連絡が可能なシステムを新たに導入いたしました。これにより、保護者の方は、個人のスマートフォンのアプリ等を通して、学校・園に欠席連絡等を行うことが可能になるなど、利便性が向上します。学校・園は、保護者の方への連絡事項等を確実に伝達することが可能になり、平時・緊急時における情報共有の強化が図られます。

保護者の皆様には、本システム導入の趣旨をご理解いただき、利用登録へのご協力をお願いいたします。

【システム概要】

	主な機能	対応の比較	
		今までの対応	デジタル化による対応
教育委員会及び学校・園から保護者への連絡	お便り・資料配布	書面(プリント)や連絡帳等を用いて保護者へ連絡	アプリ等を通して配信 ▶▶▶ 連絡事項等の確実な伝達
	日々の連絡		
	共通連絡		
保護者から学校・園への連絡	緊急連絡	見守りメールによる一斉配信	アプリ等を通して連絡 ▶▶▶ 電話連絡等が不要
	欠席・遅刻・早退連絡	電話や連絡帳の持参など	
	保護者会等の出欠調査アンケート回答など	書面(プリント)による回答	
	個別の連絡事項	連絡帳等	



▲画面イメージ

令和2・3年度 目黒区教育委員会教育開発指定校の取組

学習指導要領の改訂に伴い、児童・生徒の学習を「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価することとなりました。各学校では、単元や題材など、内容や時間のまとまりを見通しながら、児童・生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の改善を行うこと、評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価することが求められています。授業の改善と評価の改善を一体的に行うことが一層重要視されています。

目黒中央中学校では、この3つの観点による学習状況の適正で信頼される評価の在り方などについて、大岡山小学校では、理科と生活科を重点に学習を通して到達させたい児童の姿を評価基準として明確に示し、教材や授業展開を工夫する指導方法について、研究発表を行いました。

目黒中央中学校 研究発表会

令和3年10月29日(金)

研究主題

新学習指導要領に基づく授業と評価の実践

「指導と評価の一体化」の一層の推進

・評価の場面や方法を工夫して授業の改善と評価の改善を両輪として行います。

~~~~~ 研究の成果 ~~~~~

- ①「目黒中央中学校 評価スタンダード」の作成  
本校の教育目標「自立と共生」を8つの「生徒に身に付けさせたい力」に分類し、分類したものを全教科における横断的な評価軸とし、評価規準に配置しました。
- ②「生徒自己評価シート」の作成  
「指導と評価の一体化」かつ「長期的観点による学習支援」のため、評価スタンダードの「生徒に身に付けさせたい力」を盛り込み、全教科共通の単元終了時の振り返りシートを開発しました。

### 大岡山小学校 研究発表会

令和3年11月5日(金)

研究主題

自ら学び 自ら考え、伝え合う喜びを感じる子どもの育成  
~理科・生活科を通して~

#### 問題を科学的に解決する資質・能力の育成

・自然現象から問題を見だし、予想をもとに実験方法を考えるなどして、主体的に解決する指導を行います。

~~~~~ 研究の成果 ~~~~~

- ①「目黒区授業改善の手引き 理科編」による授業改善
仮説設定の場面を重点的に研究し、児童が「仮説を検証するため」という目的意識をもって実験に取り組むようにするなど、手引きに示された学習過程を大切に授業を実施しました。
- ②「明確な評価基準」の設定
毎時間の授業において、どのような記述が児童のノートやワークシートに見られたら、目標を達成したといえるのか評価基準を明確に設定し、指導と評価の一体化を図りました。